



東日本大震災復興支援 立教大学チーム調査プロジェクト研究会

九州における「自主避難者」の動向

: 佐賀県への避難者の生活実態を中心に

後藤 徹寛
(佐賀大学)

2012年7月15日 @ 立教大学池袋キャンパス12号館



九州各県における避難者の数

(2012年2月8日現在)

佐賀県の避難者受け入れ態勢

これまでの経過

震災直後の初動体制(2011.3月)

東北地方太平洋沖地震による
被災者を佐賀県で3万人受け入れます

避難生活者約30万人

受入期間は、1～3ヶ月。
『一時移住』のイメージ

佐賀県は東日本大震災で被災された方、避難された方を精一杯応援します。

「佐賀きずなプロジェクト」支援メニュー

佐賀きずな
プロジェクト

SAGA Kizuna-Project

<http://www.pref.saga.lg.jp/>

佐賀県は被災地を応援しています

このたびの東日本大震災により被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。佐賀県では、震災避難者の方を支援するために以下のようなメニューを用意しました。支援の内容や手続について、ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

支援の対象となる方

東日本大震災の被災等により佐賀県内に避難される方で、原則として本県に当分の間（1月以上）居住し、継続的に連絡が取れる方となります。
（災害救助法の適用市町村に居住されていた方に限ります。）

支援の流れ

佐賀県では、以下の全ての過程において、全力で支援・サポートを実施します。

佐賀県へ
の移動

住宅への
入居

心身に関
するケア

生活の立
ち上がり

就学・就
労等のサ
ポート

地元への
帰郷

支援のあらし

◆ 移動費の支援（佐賀県への移動、地元への帰郷）

「被災地←→佐賀県内の避難施設」の移動（原則1往復）に要する経費について世帯全員分の費用を助成します。

◆ 住宅への入居

避難者の方の希望にできるだけ応える形で生活の拠点となる住宅（公的住宅、民間アパート、旅館・ホテル、民泊（ホームステイなど））の提供を行います。

◆ 心身に関するケア

佐賀県・市町が連携して専門スタッフによる体制を組んで被災者の方の身体、精神面の相談・支援を行います。

◆ 生活の立ち上がり

① 生活用品の支援

公的住宅や民間アパートへ一時避難される方には入居時に必要となる家電等（冷蔵庫等の電気製品、ガステーブル等の生活用品）の貸与や日用品（タオル、歯ブラシ等）の交付を行います。家電等は最長2年間貸与いたします。

民泊、ご親戚・お知り合い宅へ避難される方には、ご希望により日用雑貨の交付を行います。

② 見舞金、無利子貸付金

佐賀県への一時避難に必要な経費に充てていただくため、見舞金（1人当たり3万円）を支給します。また、一時的な生活資金を確保するための無利子貸付金（上限30万円／世帯。据置期間1年・返済期間2年）を貸与します。

◆ 就学・就労等のサポート

① 就学等支援

幼稚園・保育所、小学校・中学校、高等学校までの転入学を支援します。
高校生等には奨学金による修学支援を行います。

② 就業支援

県の短期雇用や中小企業団体中央会、ハローワークなどの関係団体の協力を得ながら実施する「被災者等雇用促進支援事業」により、避難者の方々の雇用の確保に努めます。なお、全国のハローワークでは、「震災被災者対象求人」として、被災者の方々の求人確保に努められています。ハローワーク窓口で震災被災者であることを申し出てください。

お問い合わせ先

(注)上記の各種支援を受けるには、原則として、避難施設が所在する市町が交付する「確認票」(避難者であることを確認する書類)が必要です。必ず、下記の市町窓口までご連絡・ご相談ください。

○佐賀県統括本部 被災者受入支援チーム

佐賀市城内 1-1-59 佐賀県庁本館 3階 電話 0952-25-7385

佐賀県の避難者受け入れ態勢

さまざまなカテゴリーの滞在先を手配します

カテゴリー0	公営住宅、雇用促進住宅
カテゴリー1	旅館、ホテル
カテゴリー2	研修所、社員寮、同窓会館、別荘、自治公民館
カテゴリー3	民間アパート、マンション、空き家
カテゴリー4	公営の保健センター、温泉センター、老人保健センター、老健施設
カテゴリー5	お寺など宗教施設
カテゴリー6	民泊

大広間など複数の世帯が同宿する場合であっても量の滞在スペースを確保する。

民泊施設を募集します

民泊の受入をしていただく県民の皆様を募集しています。

1. 滞在スペースの提供

プライバシーが守られる個室を提供できることがベストです。鍵がかかることが理想ですが、間仕切りなど一定のプライベートスペースを提供してください。震災後の復旧作業の長期化が予測されることから、1ヵ月～3ヵ月程度の受け入れをお願いします。

2. 寝具や生活用品の提供

タオルや布団など、寝具や必要最低限の生活用品については、受入家庭ごとに、ご提供をお願いします。

3. 食事の提供

被災者の方が持ち合わせがなく、食材の購入もままならない場合は、食材の提供は受入家庭で行っていただく可能性があります。

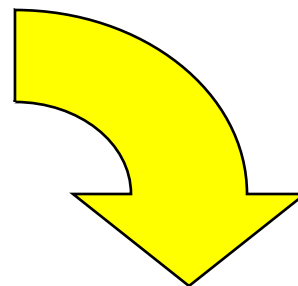
4. コミュニケーション

一緒に食事をする、たまに近所に外出をする、子どもがいる被災者の方なら子どもと遊んであげる、など、気持ちを和らげるようなコミュニケーションを図ってください。

佐賀県の避難者受け入れ態勢

市町名	担当課	電話番号
佐賀市	総合政策課	0952-40-7223
唐津市	東北地方太平洋沖地震災害支援センター	0955-72-9218
鳥栖市	総務課	0942-85-3506
多久市	総務課	0952-75-2112
伊万里市	総務課	0955-23-2123
武雄市	被災者支援課	0954-23-9122
鹿島市	総務課	0954-63-2113
小城市	総務課	0952-63-8800
神埼市	市長公室	0952-52-1111
嬉野市	福祉課	0954-66-3111

市町名	担当課	電話番号
吉野ヶ里町	総務課	0952-53-1111
基山町	総務課	0942-92-7915
上峰町	総務課	0952-52-2181
みやき町	総務課	0942-89-1651
玄海町	管理統括監	0955-52-2111
有田町	総務課	0955-46-2111
大町町	総務課	0952-82-3111
江北町	総務企画課	0952-86-2111
白石町	総務課	0952-84-7111
太良町	総務課	0954-67-0311



2011年4月末

2011年3月末

○各市町の担当窓口

市町名	担当課	電話番号	市町名	担当課	電話番号
佐賀市	東日本大震災対策室	0952-40-7222	吉野ヶ里町	総務課	0952-53-1111
唐津市	東日本大震災支援センター	0955-72-9218	基山町	総務課	0942-92-7915
鳥栖市	総務課	0942-85-3506	上峰町	総務課	0952-52-2181
多久市	総合政策課	0952-75-2116	みやき町	総務課	0942-89-1651
伊万里市	震災支援課	0955-23-2123	玄海町	総務課	0955-52-2111
武雄市	被災者支援課	0954-23-9122	有田町	住民環境課	0955-46-2114
鹿島市	総務課	0954-63-2113	大町町	総務課	0952-82-3111
小城市	総務課	0952-63-8800	江北町	総務企画課	0952-86-2111
嬉野市	福祉課	0954-66-3111	白石町	総務課	0952-84-7111
神埼市	市長公室	0952-37-0102	太良町	総務課	0954-67-0129

佐賀県の避難者受け入れ態勢

これまでの経過

被災者受入支援チームを設置します

被災者受入支援チームの主な業務内容

- 被災者受入のワンストップサービス
- 被災者への支援
- 被災者受入市町の支援
- 都道府県間の調整
- 関係機関との調整

連絡先

被災者受入支援チーム

佐賀市城内1-1-59 佐賀県庁新行政棟3階

電 話 0952-25-7385

ファックス 0952-25-7386

佐賀県の避難者受け入れ態勢

これまでの経過

これまでの支援の状況（2月8日現在）

佐賀きずな
プロジェクト

SAGA KiZuna Project

各被災地は被災地を応援しています

1 被災者の受入状況

これまでの受入済人数 184世帯480人

現在の避難者数 123世帯319人

都道府県別受入状況（累計）

出身別	累計		現在	
	世帯	人数	世帯	人数
岩手県	3	4	1	1
宮城県	31	71	17	38
山形県	1	5	1	5
福島県	78	190	64	156
茨城県	26	83	16	50
栃木県	9	31	6	21
埼玉県	3	10	1	3
千葉県	12	35	9	27
東京都	18	45	6	14
神奈川県	3	6	2	4
計	184	480	123	319

2 義援金の状況 総額約2億1,687万円

被災者受入義援金 約3,350万円

被災地義援金 約1億8,337万円

①県共同募金会 約9,409万円

②プレミアム商品券 約8,148万円

③使途を県に一任された義援金 約780万円

3 支援物資送付

被災3県へ約689トンをお届けしました。

佐賀県の避難者受け入れ態勢

皆さまの想いをピアノの音色に寄せて届けます

ピアノプロジェクト ～皆さんの想いがまもなく気仙沼に～



佐賀きずな
プロジェクト

SAGA Kizuna Project

佐賀県は被災地を応援しています

- ・義援金付きプレミアム商品券は、全20市町で41万1千セット（4,521百万円分）が完売
（義援金：消費者は1セット購入毎に100円、事業者は換金額の1%）
- ・義援金は、2月8日現在で81,475千円が集まっており、最終的に86,310千円に達する見込み

ピアノプロジェクト 第一弾 昨年12月に気仙沼市に23,986千円寄贈

（気仙沼市の小学校5校、中学校7校へのグランドピアノ9台、アップライトピアノの3台購入分）

気仙沼市を通じ高校、幼稚園、文化施設等からの希望を受け、今後も第二弾、第三弾として寄贈します

気仙沼市立階上（はしかみ）中学校卒業式

- ・日時：平成24年3月10日（土）
- ・佐賀県から贈られたピアノの演奏で卒業生を送ります。

階上中学校に開設された避難所には、佐賀県職員も派遣され、支援活動を行いました。
震災直後の卒業式では「天を恨まず」の答辞がテレビで報道され、
国内外に大きな感動を与えました。



佐賀県の避難者受け入れ態勢

あの日(3.11)を忘れない・・・

3.11震災復興写真展

期間 3月5日(月)～3月11日(日)

場所 佐賀県庁 新行政棟1階 県民ホール

内容 (1)震災関連の写真パネル展示

被災地の様子、行政・団体・県民の支援活動の紹介、報道写真など

(2)震災関連の映像放映

被災地の地元メディアが撮影した震災当時の様子、県の支援活動紹介など

(3)その他

募金箱設置など

この他、3月11日にはさまざまなイベントなどが開催予定

「3.11東日本大震災復興支援SAGAコンサート」(どん³の森)

主催:実行委員会

「東日本大震災慰霊碑除幕式」(護国神社)

主催:佐賀若楠ライオンズクラブ

「トーク&ライブコンサート『心の健康』」(アバンセホール)

主催:県精神保健福祉協会

「佐賀市防災フォーラム」(メートプラザ佐賀・ほほえみ館)

佐賀きずな
プロジェクト

SAGA Kizuna-Project

佐賀県は被災地を応援しています



3月11日14時46分には、県民の皆さまも黙とうをお願いします。

佐賀県への避難者の実態

◆宿泊：民泊施設にはほとんど入居なし。

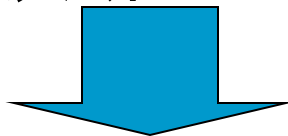
⇒被災地情報が入手困難など不便

⇒公共施設（県営や市営住宅、雇用促進協会など）

◆就労：県や市町、商工会などがコーディネート

⇒パートや短期就労など不安定な雇用がほとんど

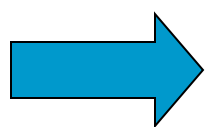
⇒定住化できない・決断できない



ストレスや不眠、精神不安（母子避難世帯）

佐賀県の避難者受け入れ課題

- 県庁所在地の佐賀市では、県庁、地元の市民団体・NPOとの連携による各種イベントをはじめ様々な対応がある。一方、他の市町では対応人員の殆どが併任など兼務のため限定的な対応のみ。
- 震災後1年、避難生活も1年以上になり、地元に戻るか佐賀に留まるかの選択や経済的な問題(二重生活)に悩み、精神的なストレスを貯めている避難世帯(とくに母子避難世帯)への心的ケアが不足している。
- 就労支援、教育支援、地元との交流支援などが不足しており、孤立感、孤独感を強める避難者が増加している。母親が孤立してしまうと、とくに未就学の幼児の姿を確認することが困難になり、ネグレクトも懸念されている。



様々な支援が圧倒的に不足。行政支援に限界ある以上、市民や市民団体の支援が重要。対策急務！